

桜雲の下 ひのきしんデー 家族で参加する喜び

ひきよせ

発行所

天理教夕張大教会

〒068-0029 北海道

岩見沢市9条西6丁目21

☎ 0126-22-1248

FAX 0126-23-7275

yubaridai146@gmail.com

ホームページ

bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします



会長より皆様へ

春の桜の見頃を北海道が迎えました。町のはずれには冬の間にダンプカーでせっせと運ばれた雪の山がまだ残っています。除雪作業員の方々のお力の結晶と感謝します。更には冬の間も衣食住を支えて下さる方々を始め、道路、医療など世の中は多くの人々のお陰で満ちていて感謝に堪えません。親神様のお働きは水や空気、日光。天然自然の恵みの元となる全て。その上に、顔も知らない沢山の誰かのお陰で、私は厳しい冬の間も無事にご飯を食べ、お風呂を沸かし、暖かな服を着て、ようやく春の喜びを迎えられます。私の人生もその「誰か」になりたいと願ひ、



お知らせ

5月22日 少年会夕張団総会10時放送
6月月次祭 6月15日(水) 9時30分開扉献饌
7月23日 婦人会夕張支部総会 開催予定



今日も生きています。

教祖中山みき様が残された「ひながたの道」の信仰者であり、人をたすけることを誓った布教師の私は、今の世の中の為に一体何が出来るのか。自分の生き方は果たしてこの世界に必要なのか。迷いの答えはいつも親神様の教えの中にありました。この道は親神様が私達全ての人間を可愛い我が子と云って下さり、苦しめたくない、たすけたいとおっしゃり、その為に「おつとめ」を勤める事、人助けをする事を私達に「頼まれている」道でした。神と人との間に主従はなく、ただ産んでくれた親神様が世界中の子ども達に「頼む、

話を聞いてくれ」と優しく語りかけて下さる温かな道でした。

親神様、教祖は、陽気暮らしをさせてやりたい親心が、いつか世界中の子ども達に届き、争いの根が切れ、たすけあいの日々が始まる事を望まれ、私達一人一人の子供達を引き寄せ、役目を頼んで下さいました。それは親神様を信じ、心を自由に働かせ、苦しむ世界のきょうだい達を一人でも多く喜ばせてあげてくれという事。世界の混乱の前にも無力な自分ですが、日常で出逢う人々に明るく接し、幸せを願ひ親切を尽くす事、そして教祖が教えて下さった「おつとめ」を全霊で勤める事。

これが私が親神様から頼まれた大切な仕事と悟り、心を働かせ続けたいと存じます。

大教会長 藤田大和



四月月次祭の様

4月に入って、いよいよ春めいた風が道内に流れ、気温の上昇と共に雪解けが進んでいった。露わになった土からは様々な草や花が顔を出し、北国の我々が待ち望んだ春の到来を否が応でも感じさせてくれた。

4月の月次祭より、一般信者の祭典への参拝を受け入れることになった。そのため、参拝場の障子を取り外してサーキュレーターを複数個設置するといった換気対策や、密集を回避するため食堂にもモニターを設置して参拝できるようするなど、大勢の方が来られても良いよう各所に対策が施された。

迎えた15日はここ数日の暖かさから一転、少し肌寒い中での祭典となった。定刻9時30分より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。この日を持ち佐びていたのか、先月よりも参拝者は増え、雪が無くなって広くなった駐車場だったが動く隙もないほどに車でごった返した。今年初めての参拝の方もあり、久々の顔合わせに喜び、参拝場のあちこちで笑顔の花が咲いていた。



講話には大教会前会長が立ち「天理教とはどんなものですか?と聞かれる事があります。そういう時に私がどのように答えているか、という『助け合って、陽気に暮らしましょう』という教えです、と言っています。これが教えの根本ですね。しかし、これがなかなか難しい。助け合わず、争ってばかりいる。どうやったら陽気に暮らせるのか、という私は三つのことをいつも言っています。一つ目は感謝。二つ目にお掃除、自分さえよければいいという心を掃除し、人に喜んでもらう心へと変わっていく。感謝とお掃除が出来る人は、大したものですよ。だけれどそれだけじゃ、よふぼくとしては足りませんね。何か自分で動いて、人の為にさせてもらう種まき、これが三つ目です。

この話を誰にしたかというところ

札幌刑務所の受刑者さんです。『一番大切な人の為に、幸せを祈りましょう。大切な人は誰ですか?』と聞くと、『母です』『妻です』『子どもです』と口々に答えます。『お母さん、心配してるだろうね』と言うと、ポロポロと泣き出すんです。しかし次の月に行くと、私が言った三つのことを覚えていいますか、と聞いても、覚えていないんです。でも泣いて聞いてくれたから、少しは心に響いたかなと思つてました。すると刑務官が『あの涙に騙されちゃいけませんよ』と一言。要は人の心はそんなに単純なものではない、ということですよ。簡単に改心したり、生き方を変えられないんですよ。

現在、ウクライナの問題やコロナのことを見ると、憎みあったり、蔑んだり、悲しい気持ちになることが多いですね。そこで私が思ったのは『人間って、なかなか成長しないなあ』ってことです。出世してないなあ、と思うんです。おふでさきに

『だん／＼とこどものしゆせ
ましかねる神のをもわく』

こればかりなり(四号65)とあります。この言葉が私にとて響きました。出世というところ、世の中で偉くなることを思い浮かべ

ると思います。しかしここでの出世とは、神様が望まれる、助け合つて陽気に暮らす心へと少しでも近付く事ではないかと思えます。この出世が全然進んでない気がします。身近なところばかり見て平和になつたと思つていても、実際には世界中で戦争のなかつた時はないんです。今回より前にも、アフガニスタンやイラクやシリアと、二十一世紀になつてからも沢山の人が戦争の犠牲になつてきました。ウクライナとロシアを見ても、当事者たちはお互いに正義だと思つて戦っている。人間はそんなことをしてはいけぬ、と互いにわかっている、止まらないんです。そんな様子を見て、成長しないなあ、出世してないなあ、と思つてしまふわけです。

このような今、我々がどうさせてもらつたらいいのか。毎日のように入ってくる悲惨なニュースに徐々に曇ってくる心を、朝夕のおつとめで掃除させてもらつて、すつきりさせてもらう、ということが大事だと思えます。おつとめの時には、身上の人の助かりや戦争やコロナ禍の終息をお願いしていますが、やるべきことをやったら、その後の時間は感謝の気持ちになれるように使いたいですね。せつ

かく陽気ぐらしを教えてもらつてくるのに、外のことでは気持ちが暗くなつてばかりなら、値打ちがないと思ふんですね。心の中の世界と外の世界があつて、それぞれで起こつてくることに我々は心を動かされて、毎日を暮らしている。どんなことが起こつてきても、陽気ぐらしを目指さなければいけない。だから、暗いニュースが溢れる今も、笑える時には笑わなければいけない、と思えます。阪神大震災に遭つた方が言っていたのが、身内を亡くし家を無くし絶望の状況で必死に片付けをしていた時、ふと人と顔を合わせると、お互いに笑顔になつた。人間どんな時でも笑うんだ、と思つたそうです。

私たちは陽気ぐらしを説かなければならない。それは今と未来の話です。しかし最近では信者さんのお宅へ行つても『コロナでなかなかね』となつてしまつて、どうも勇めない。そういう時は、私も過去の話をします。あの時はこうだった、ああだった、と。すると当時と比べると、今はこんなに有難い、という心も出てくる。自分の内面には喜べるということがいくつもあるんです。そこに気が付けば、明るい方向へ向けると思ふんです。私が打ち出した『今、出来るこ



とがある！」に呼応して始めた、私の奥さんのことも食堂が12回目を迎えました。コロナ禍の今、様々な工夫しながらやっています。色んなところから取材や視察に来てますね。出来ることとは、そんなにオーバーなことじゃなくていい。こんな時だから、と言って縮こまればかりはられないですね。私も国道見守りたいや、ロータリークラブをやっていますが、そこからおちばへ帰る人、別席を運ぶ人が出てきて、いいにいいがけになっている。皆さんもそれぞれの立場で出来ることを探して、少しずつでも取り組んで頂きたいと思います」と話された。

大教会長は挨拶で「父の話聞き、初めて一緒におたすけが出来た時のことを思い出していました。おたすけを願う方が家族で参拝にいられた時、父はお願いにいられた人と、そして私はそのお子さんと話をし、何とかおちばまで導かせて頂いたことがあります。『いつもおたすけが早くからにはやくやうきになりてこい』(四下り目五ツ)とみかぐらうたにもあります。どんなに心が暗くなるようなことがあっても、先祖の残して下さった

3年ぶりに婦人会総会開催 夕張より23名が参加

去る4月18日には本部で教祖御誕生祭、翌19日には本部中庭にて婦人会総会が執り行われ、新型コロナウイルス感染症がなかなか収束とならない中ではありますが、夕張支部から23名がおちばへ帰らせて頂きました。



18日は教祖のお誕生をお祝いするに相応しい天気となり、また3年ぶりの総会となった19日もとても良いお天気でした。おちばの空はどこまでも青く澄み渡っていて清々しく、久々に開催の日を迎えることができた会員の皆さんの喜びを表すような空でした。婦人会として久しぶりの団参でしたから、道中も皆嬉しさいっぱひながたが、私の物差しと重なっています」と話され、また今年各教会に大教会長が巡教する旨を述べられ、それぞれの教会において都合の良い時、方法を相談してもらおう、お願いされた。

その後、藤田豊・少年会団長より、5月22日に行われる少年会総会への対象者の参加と、オンライン配信の視聴のお願いが、参拝者に向けて伝えられた。



いで、笑顔や笑い声が絶えませんでした。無事に詰所へ着くと、ほとととする間も無くご本部参拝へ。出掛ける方の中に80歳を越えた会員さんがおり、一步一步と踏みしめながら歩いて出掛けた後姿に、深い信仰への一途な想いが伝わって胸が熱くなりました。そして「歩いて嬉しい」と言って、笑顔で詰所へ戻って来られたのです。こんな嬉しい出来事もあり、共に良かったねありがたねと、同じ喜びを味わうことの出来たおちば帰りとなりました。

(常任委員・梶川洋子)

青年会・女子青年の 合同総会にエール

2月19日のオンライン総会を觀て、隔世の感がし、またコロナ禍の中でよくやったという激励をしたく、ペンを執った。
昭和47年1月、大教会への陞級の声が掛かった中、青年会委員長は西尾庄市委員長から藤田文雄委員長に交代した。その総会の為に、私は本部勤務の中ながら夕張のよふぼく、中席者の中から35歳までの名簿作りをし、60名を越すものが出来、500通程の案内ハガキを出し、当日の参加者が36人となった。兵神から清水與一先生他3名がご来会され、私をはじめおちば勤務の者も大勢帰った。
神床、お社を改修していた最中の事で、積み上げた畳に白布を掛けてテーブルにした立食パーティー、エレキバンドの演奏に、暗転の中でゴーゴードダンス、飲み物はカクテルでジンフィズやコークハイ。時を忘れて楽しんだ。
この青年会総会が翌年の陞級奉告祭への大きな起爆剤になった事は言うを俟たない。
来年は大教会陞級50周年。今回の活動から多くの人を巻き込んだ活動へ拡がって行くことを願う。

(役員・史料部 梶川創一郎)

全教一斉 ひのきしんデー様子

4月29日、全国各地において、全教一斉ひのきしんデーが実施された。コロナ禍未だ収まらぬ中、開催方法は各支部、各組の判断に任せられ、一堂に会してひのきしんを行う所、教会や家庭単位でひのきしんをする所と、様々であった。折しも例年よりも気温が高い日が続いて道内は各地で桜が見頃となっており、あでやかな春景色の中、夕張に繋がるよふぼく達の勇んだ姿が各地で見られた。

またおぢばの夕張詰所では、前日に神殿当番を勤めた大教会長と共に、在任者が田井庄から前栽にかけての道をゴミを拾って歩いた。コロナ禍という未曾有のふしの中にあって、かりものである身体を存分に動かせる喜びを感じ、それぞれが気持ちのよい汗を流した一日となった。



旭川支部 常盤公園

女子青年例会スタート

コロナ禍でできなかった女子青年活動を3年ぶりに再開できました。今回の例会は委員長、副委員長、会員1名の3名でさせて頂いていただきました。例会では、女子青年のハッピーにつけるバッジ作りをしました。今後も感染対策をしながら活動し、女子青年の絆を深められたらと思います。



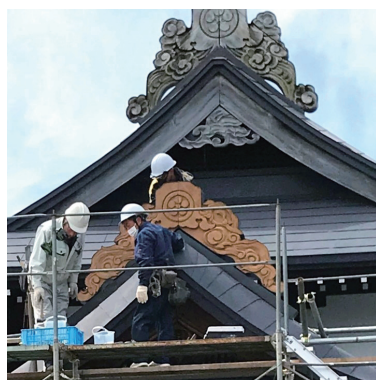
南空知支部 由仁町 緑豊苑



南空知支部 夕張市 旧清水沢駅前周辺

第二客間玄関上部の 鬼板の取り付け工事

4月25日、長年の雪、経年劣化で傷みが激しく、この冬入れかけていた鬼板の交換取り付けが行われた。坂本忠則氏（沼貝分教会長）が彫刻をし、板金貼りは安藤喜久夫氏（馬追）が担当。この日、共に取り付け工事をし無事終了した。ありがとうございます。



大教会住込み青年 長い間お疲れ様でした

この春、二人の住み込みの方が勤めを終えられました。中井富雄さん（直轄）は4月23日に、藤田亮平さん（幌都）は4月1日をもって青年づとめを終え、それぞれの自宅、自教会へ戻られました。中井さんは12年、藤田さんは15年と、長い間おつとめ頂きました。大変お疲れさまでした。今後の地元での活躍を願っています。



中井富雄さん 藤田亮平さん

庶務部 4月

- ▽初席 木村 愛 (馬追) 4・26
- ▽詰所ひのきしん 4・9
- 大久保豪司 (善進道)
- 大久保あゆみ (善進道)
- 大久保美心 (善進道)

大教会日誌抄 4月

- 大久保綾人 (善進道)
- ▽をびや 2件
- ▽詰所教養掛
- 5月 富山知一 (栗山)
- 6月 藤崎 実 (旭都)
- 1日 たすけ推進会議
- 2日 藤田亮平、住み込み終了
- 4日 前会長夫妻、札美分へ
- 7日 岩見沢組例会
- 8日 前会長夫妻、札美分へ
- 10日 会長夫妻、祝梅分巡教
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 16日 会長、おぢばへ
- 17日 奥様、前奥様、おぢばへ
- 18日 教祖誕生祭、会長、婦会
- 19日 第104回婦人会総会
- 21日 奥様、前奥様、婦会
- 24日 前会長、札美屋根修理 (23日)
- 26日 会長、おぢばへ
- 27日 中井富雄、住み込み終了
- 28日 第二客間、鬼板取り付け
- 29日 本部月次祭
- 30日 通拜式
- 31日 会長、かなめ会
- 32日 会長、本部神殿当番
- 33日 全教一斉ひのきしんデー
- 34日 会長、婦会
- 35日 前会長、札美分へ